

# 進路だより

令和8年 3月吉日  
都立中野特別支援学校  
+しいの木分教室  
第5号  
校長 和田 慎也  
担当 西應 幸恵

～卒業生の皆さん～

## 御卒業おめでとうございます

早いもので、今年度も残すところあとわずかとなりました。一年間を通して、児童・生徒たちは様々な学習活動の中で新たな経験を積み、力を身に付けることができたと思います。進路指導に関しては、それぞれの学部で、就業体験や実習などに取り組みました。将来に向けて働くイメージをもったり、仕事について考えたりする機会をもつことができたのではないのでしょうか。御家庭にも御理解、御協力いただきましてありがとうございました。

今号では、専任からの報告とともに、各学部で今年度に取り組んだ進路指導などについて報告いたします。

### 【専任より】

#### ◆高等部を卒業する皆様

高等部を卒業する3年生の皆さん。御卒業おめでとうございます。高等部3年間の学校生活が終わり、社会人としての生活が始まります。これから始まる就労生活の中で、自分だけでは解決できない困難なことが起こることと思います。その時は一人で抱え込まず、周りの誰かに相談するようにしましょう。きっと、皆さんの力になってくれるはずですよ。

高等部3年生の保護者の皆様。お子様の御卒業おめでとうございます。これから始まる社会人としての生活に、期待と不安を抱いていらっしゃると思います。これから始まる進路先での生活の中で、学校環境との違いに戸惑われることがあるかもしれません。福祉施設においては、施設環境やマンパワーが大きく異なります。学校であったような、個別の環境や対応が難しい場合も考えられます。また、福祉施設の職員の中には、まだまだ経験の浅い方々もいます。「我が子の応援団を育てていく」気持ちで、お子様を見守り支えていただきたいと思います。また、企業においては、指導員や同僚はおりますが、支援者はありません。困ったことがあった際に、学校であったような、担任の教員からの「どうしたの？」などの言葉掛けは期待できないことも考えられます。まずは、働く本人が自分から発信できるように促すこと、自分発信が苦手な方は家族が聞き取って支援機関に情報提供することが大切です。

学校も、卒業後の応援団の一組織として、サポートいたします。お困りごとの際には御連絡ください。

#### ◆在校生の皆様

高等部3年生になると、自分の進路先を決めるための現場実習が始まります。多くの方が2～3回の実習を通して進路希望先とのマッチングを行い、福祉施設の場合は行政による調整や実習の結果、企業の場合は採用選考の結果で、進路先が決定します。進路希望先とミスマッチとなった場合は、実習回数が増えたり、進路希望を変更したりすることになります。

最近の高等部3年時における実習先からの評価を見ると、希望の実習先から厳しい評価を受ける傾向が数多く見られます。どんなに希望していても、実習先からの前向きな評価が得られず、結果として、進路希望先を変更しなければならないケースが多々あります。私たちが進路先を選ぶように、進路先も利用者や雇用する従業員を選ぶ傾向が強くなっているように思います。

こうした状況に対応できるよう、進路選択の幅を広げることを意識する必要があります。就労系の福祉事業所の利用や企業就労を希望される方は、公共交通機関を使って通うことができること、介護系事業所の利用を希望される方は、個別対応にならないための手立てを見付けることで、進路先選択の幅が広がります。進路希望先が断定的なものにならないために、御家庭と学校とで、その手立てを考えていきましょう。

(田邊 大樹)

## 【専任より】

### ◆はじめの一步

高等部では卒業がいよいよ目前に迫り、具体的な進路先を考えていく時期となります。大切なお子さんの進路決定に向けて、保護者の皆様が主体的に動き、情報収集を進めてくださっていることには、いつも深く感謝しております。一方で、中にはお子さんに「完璧にあった事業所を見付けないといけない」と思い詰めてしまう保護者の方もいらっしゃいます。大切なお子さんの将来のことを考えれば、そう感じるのは自然なことかもしれません。しかし、卒業後もお子さんの成長は続いていきます。就職した会社や利用する事業所で経験を重ねていく中で、「うちの子には合わなくなってきたな」と感じることもあるはずで、その時に、別の会社や事業所を検討することは、決しておかしなことではありませんし、むしろ自然な選択です。在学中に決める進路は、卒業後のお子さんの「これからの人生すべて」を決定するものではありません。卒業後の社会人として踏み出す「はじめの一步」を、一緒に考えていきましょう。

### ◆多様な選択肢から進路先を選び取るために…

近頃、社会を見渡してみると、街では多くの外国人の労働者が働いていて、インターネットには隙間バイト、転職サイトの広告が溢れています。それだけ私たち一人ひとりが多くの多様な働き方や生き方を選べるようになってきたということなのでしょう。この変化は福祉の現場も例外ではありません。パソコンを扱ったり、飲み物を製造したり、これまでには見られなかった新しい形の福祉事業所が生まれています。卒業後に選べる進路の幅は年々広がりつつあります。では、その多様な選択肢をお子さん自身が選ぶ取るためには何が必要でしょうか。仕事のスキルアップはもちろん重要ですが、実は多くの事業所が次のような「自立度」に注目しています。

- ・職員がそばにいても安全に過ごせるか
- ・昼休みを一人で落ち着いて過ごせるか
- ・困ったときに自分からヘルプを発信できるか

多くの選択肢から希望する進路先を選び取るためにも、まずは一人で過ごす、通う、仕事をするための「日々の小さな自立」を積み重ねることが大切です。お子さんの将来の選択肢がより広がるように、日々の支援を今一度見直してみたいはいかがでしょうか。  
(江川 拓郎)

## <小学部>

小学部では、1年生の頃から基本的な挨拶、係活動を通して役割や達成感、自分の事は自分でやってみようという意識など日々の生活の中で繰り返し習得できるよう練習しています。また校外学習では、3年生より電車での移動に取り組み、公共交通機関の利用の仕方などを学んでいます。このような経験を積み、5・6年生では、今年度も校外での就業体験を実施しました。地域や社会の方々との関わり、体験や見学を通して「仕事」について知ったり考えたりする機会になりました。また6年生では、中学部への進学に向けて作業学習などの授業体験をしたり、中学部主幹の先生に来ていただき、「中学部はこんなところだよ」と詳しく話を聞いたりしました。このような経験からこれから先の生活についてのイメージが少しずつもて、楽しみにしている様子もたくさん見られるようになりました。次年度も小学部段階から将来の生活に向け、より良い土台となるよう指導を進めていきたいと思っております。

保護者のみなさま、御理解・御協力いただきありがとうございました。  
(八木澤 小織)



### < 中学部 >

中学部では、日々の学習の中で自分の力を伸ばしたり、校外での就業体験などから将来へのイメージを見付けたりと一年間を通して様々な経験をしてきました。各学年から今年度取り組んでできたことをお伝えします。

1年生は、中学部に入って初めて「職業」の学習が始まりました。「挨拶」などの態度についての学習や、ボールペンの組み立て・封入などの軽作業や清掃作業にも取り組みました。3学期に入り、1月にはふらっとなかのへ就業体験に行きました。初めて福祉施設を訪れる生徒も多く、カフェの見学やフェルト玉の接着作業の体験に興味をもって取り組む事ができました。

2年生は、「挨拶」「身だしなみ」「時間を守る」等のルールやマナーについて学び、10月には弥生福祉作業所へ就業体験に行きました。作業の様子を見せていただき、チラシの折り込み込み作業の体験をしました。職業の授業でも軽作業に取り組み、「〇〇の作業が楽しい」という感想も聞かれました。また、将来の生活に向けて、公共の交通機関の利用についても学習しました。

3年生はいよいよ卒業式に向けた学習が始まりました。残りの登校日数を聞いては驚き、「高校生になったら作業学習を頑張ります」、「中学部の先生と会えなくなるのは寂しいけど、新しい友達や先生と会えることも楽しみです」など緊張を感じつつもポジティブな表現も見られます。高校生の作業学習や職業の授業、就業体験などを通して働くことへの意識をさらに高めてほしいと思います。これまでの進路指導に御理解、御協力いただきありがとうございました。それぞれの場所でさらに意欲的に学習に向かう姿を応援しています。

(玉野・西應)



### < 高等部1年 >

保護者の皆様には、日頃より本校の進路指導への御理解・御協力をいただき、ありがとうございます。本号では、高等部1年生の進路学習のまとめと、2年生に向けた内容についてお知らせいたします。

#### 【1年生の進路学習について】

高等部1年生では、「働くことを知る」ことを目的に、段階的な進路学習に取り組んできました。3学期には、職場見学や1日のミニ実習を行い、実際の職場の様子や仕事の体験を通して、あいさつや身だしなみ、指示を聞いて行動することなど、働く上で大切な基本を学びました。

生徒一人一人が、自分のできたことや課題に気付く貴重な機会となりました。

#### 【2年生からの現場実習について】

2年生からは、2～3日間の現場実習が始まります。実際の職場で複数日続けて仕事に取り組む中で、仕事への取り組み方だけでなく、体調管理や生活リズム、人との関わり方なども含めて学習していきます。現場実習は、今後の指導や進路選択につなげていくための大切な学習です。

#### 【ご家庭へのお願い】

今後の進路学習に向けて、規則正しい生活習慣や身だしなみ、挨拶など、日常生活での基本的な習慣づくりについて、御家庭でも引き続き御協力をお願いいたします。

高等部1年生の1年間で、生徒たちは「働くこと」への第一歩を踏み出しました。それぞれの成長を大切にしながら、2年生ではより実践的な進路学習を進めていきます。

今後とも、本校の進路指導への御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

(中山・小暮)

#### <高等部2年>

今年度予定されていた現場実習がすべて終了いたしました。これもひとえに、保護者の皆様に御協力いただいたおかげです。心より感謝申し上げます。1年次のミニ実習と今年度の現場実習を経て、生徒自身が、働くということ、職場という環境、自身の得意なことや不得意なこと、働くために必要な力などを知ることができたと思います。保護者の皆様におかれましても、お子様の適性を知り、卒業後の就労について深く考える機会になったのではないのでしょうか。

3年生になると、「知る」「考える」ではなく、就労の場を「決める」ための実習が始まります。実習の振り返りや進路面談で、今後の成長を期待された点を伸ばすことができるよう、引き続き御家庭でも御支援、御協力をお願いいたします。2年生の現場実習で、「来年もここで実習したいです」と伝えた生徒に対し、「3年生の実習では、もっと求めることが高くなるし、評価は厳しくなる。成長が見られないと困る。」と実習先の方がおっしゃった例もあります。企業や事業所にとっても、「体験」ではなく、「就職活動の一環」とみなされる実習となることを、御理解いただけると幸いです。

とはいえ、2週間近く休める春休みは、この春休みが最後です。来年は4月1日から出勤です。学生生活最後の春休みも満喫しながら、できることを増やす時間となることを願っています。

(久野・中川)

#### <高等部3年>

桜のつばみも膨らみ始め、いよいよ卒業の日が近づいてまいりました。

保護者の皆様におかれましては、この三年間、本校の教育活動ならびに進路指導に御理解と御協力を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

生徒の皆さんが、今日まで学校での学習や現場実習等をこなして成長してこられたのは、間違いなく御家庭のサポートがあったからです。

4月からは「学生」ではなく「社会の一員」となります。学校という場所はなくなりますが、支援がなくなるわけではありません。新たな環境での新たなチームが始まり、支援が続いていきます。

そのために必要となるものが、「個別移行支援計画」です。個別移行支援計画は、生徒の皆さん一人一人が自分らしく自立した社会生活を送るために、福祉、医療、進路先等との連携を図りながら、個々に応じた支援やサービスが、円滑につながるようにするためのものです。卒業式後、学校は「個別移行支援計画」を基に、進路先を中心に必要に応じて福祉事務所、就労支援機関等で引き継ぎを行い、卒業後の支援のネットワークを作っていきます。将来の生活についての希望や必要と思われる支援の内容を学校・進路先・就労・福祉関係機関とともに話し合い、卒業後の支援のネットワークを作っていくことが目的です。

一人で抱え込まずに、生徒の皆さんが社会に根を張るまで、ゆっくりと着実に輪を広げていきましょう。

(松尾・江口)

